

ローランド株式会社

証券コード 7944



ROLAND REPORT

第42期 中間報告書

2013年4月1日 → 2013年9月30日



企業スローガン

創造の喜びを世界にひろめよう
BIGGESTよりBESTになろう
共感を呼ぶ企業にしよう



代表取締役社長 三木 純一

Q 社長就任から半年が経ちましたが、ローランドにおける今の中心課題をお聞かせください。

A 電子楽器事業の業績はここ数年厳しい状況が続いています。これは、急激な円高やリーマンショック以降の日米欧における景気停滞など、外的な要因もあると思いますが、それだけではなく、内的な要因も大きいと考えています。そういう意味では、まず社内を改革する必要性を強く感じています。それらの対策をまとめたものが「中期経営計画2016/3」です。この計画の遂行により2016年3月期は電子楽器事業で売上高470億円、営業利益25億円、連結では売上高920億円、営業利益72億円を目指しています。

Q 具体的にはどのような点を改革する必要がありとお考えですか？

A まずは安定した収益を確保できるよう、コストの削減に努め、体質を改善することが重要です。その一環として、前期末に国内外合わせて約370名を対象とした人員削減を行いました。さらに9月には、当社のグループ企業で、音楽制作ソフトの開発会社であるCakewalk社をギターメーカーのギブソン・ブランド社に譲渡する内容の基本合意を締結しました。また、11月には欧州の開発・生産拠点であるローランド・ヨーロッパの解散を決定しました。これらの施策は我々にとって大きな痛みを伴うものですが、結論を引き延ばせば、さらなる事態の悪化を招くと考え決断しました。そのほかにも、グローバル視点による物流の効率化や部品調達の最適化など手がけるべき課題はたくさんあります。これらのコスト削減を予定通り進めることで、収益力の強化が図れると同時に、製品の価格競争力強化にもつながると考えています。

Q 製品開発に関してはいかがですか？

A 当社はこれまで技術志向で歩んできた会社ということもあり、新製品の開発による市場提案がビジネスの基本スタイルでした。しかしながら市場が成熟するにつれ、その提案もさらにお客様に近いものであるこ

とが求められ、「技術志向」と「顧客志向」をより高い次元で両立させることが重要になってきています。

そこで今、開発に対してはエンジニア自身が現場に行き、お客様と向き合うよう呼びかけています。これまで決してお客様の方を見ていなかったわけではありませんが、机に座って入ってくる情報ではなく、現場でお客様に接して感じたことを製品に活かしていくことが重要だと考えています。

また一方で、これまでにお会いした販売店様や業界の方々からは、当社に対する期待を強く感じました。やはりローランドには、ワクワクするような新しい楽器の開発と新規市場の創出が求められていると思います。そこでRPGという社内カンパニーを7月よりスタートし、ダンス分野などを含めた新しい市場をターゲットとする製品開発にも力を入れていきます。

Q 地域別の施策に関してはいかがでしょうか？

A やはりこれから大きな伸張が見込めるのは新興国市場だと思います。ただし、一口に新興国といっても、地域によって音楽文化は大きく異なりますので、本格的に展開していくためには、それぞれの音楽文化にマッチした対応が必要です。楽器の中に内蔵された音色や伴奏スタイルなど、地域ごとにローカライズされた製品の開発や市場へのアプローチを図り、新興国を成長のドライバーとしていきます。

一方で、しばらく大きな成長は見込めないかもしれませんが、今でも楽器市場の中で大きなシェアを占めるのは、日本、米国、欧州です。これらの地域では、大手流通の寡占化やインターネット販売の伸張など、新しい傾向が顕著となってきました。これらの変化に対しても、お客様

の意向を正しく見据え、適切な対応を図ることでシェアの確保を図っていきます。

Q 現在の業績と今後の見通しについてお聞かせください。

A アベノミクスや北米の復調など、経済環境が徐々に向上していく中で、上半期の実績を見ると、表面上は業績が改善しつつあるように見えるかもしれませんが、しかしながら、これは為替が大きく影響しているため、実質的には非常に厳しい状況が続いていると認識しています。そのような状況の中、今期はコスト削減とインフラ整備を中心に取り組みながら、チャレンジ精神やスピード・アップなど企業パワーの源泉となる社員の意識改革も推進していきます。その結果、2014年3月期の売上高は843億円、営業利益は58億円を予定しています。また来期については、新しい体制で開発された製品もデビューする予定ですので、成長フェーズへの移行を目指したいと考えています。

Q 最後に株主の皆様へメッセージをどうぞ

A 当社には創業以来変わることのない経営理念である、「創造の喜びを世界にひろめよう」、「BIGGESTよりBESTになろう」、「共感を呼ぶ企業にしよう」という3つのスローガンがあります。この原点をしっかり継承するためにも、今は避けて通れない試練の時期であると考え、日々改革に努めております。

株主の皆様におかれましては、当社の企業活動に引き続きご理解を賜りますとともに、今後とも一層のご支援のほどよろしくお願い致します。

2014年3月期上半期業績

- POINT**
- 電子楽器事業は、売上高は為替影響により前年同期並み。営業利益は事業構造改革により黒字化
 - コンピュータ周辺機器事業は、北米や日本で大型プリンターが好調に推移し、増収増益

売上高	402億円	前年同期比 +39億円
営業利益	31億円	前年同期比 +29億円
経常利益	31億円	前年同期比 +31億円
四半期純利益	8億円	前年同期比 +10億円

(事業別業績はP4「連結財務ハイライト」参照)

当上半期の業績は、電子楽器事業では、売上高は、実質販売減となるものの、円安効果により前年同期並みとなりました。営業利益は、前期実施した事業構造改革による人件費削減等により、前年同期の赤字に対し黒字となりました。コンピュータ周辺機器事業では、北米や日本で、プリンターの新製品やデンタル加工機等を中心に好調な販売となりました。実質販売増に加え、円安効果や新製品の生産増もあり、前年同期と比べて大幅な増収増益となりました。

2014年3月期通期業績予想

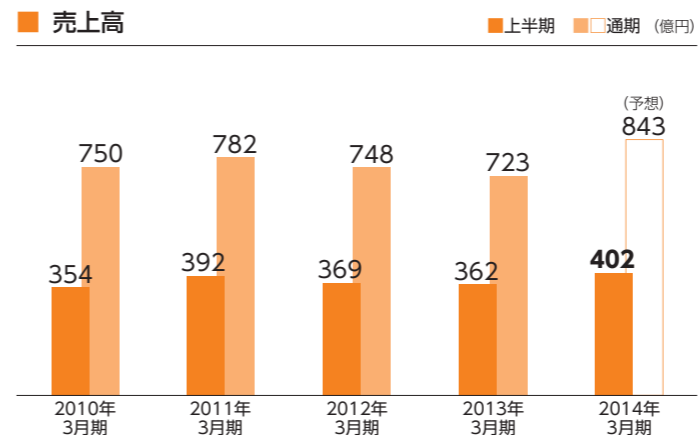
- POINT**
- 電子楽器事業は、日本、北米、欧州で実質的には販売減となるものの、為替影響により増収予定
 - 最終ネットは経常利益から税費用や少数株主利益に加え、特別損失を差し引き1~6億円の赤字

	今回予想	対期初予想
売上高	843億円	+31億円
電子楽器事業	431億円	+6億円
コンピュータ周辺機器事業	412億円	+25億円
営業利益	58億円	+23億円
電子楽器事業	5億円	+10億円
コンピュータ周辺機器事業	53億円	+13億円
経常利益	56億円	+25億円
当期純利益	△1~△6億円	△1~△6億円

当期通期の予想は、電子楽器事業、コンピュータ周辺機器事業ともに、増収増益となる見込みです。

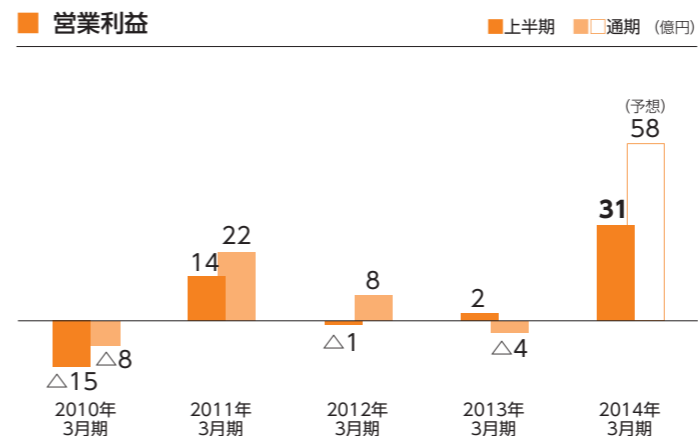
電子楽器事業では、欧米市場における回復の足取りが重く実質販売減となる一方、円安効果により売上高が増加することに加え、事業構造改革による人件費削減等により営業利益は増加する見込みです。当期純利益は、海外子会社の解散、清算に伴う特別損失を15~20億円計上することにより、1~6億円の赤字を予定しています。なお、この清算により年間約10億円の収益改善効果を見込んでいます。

売上高



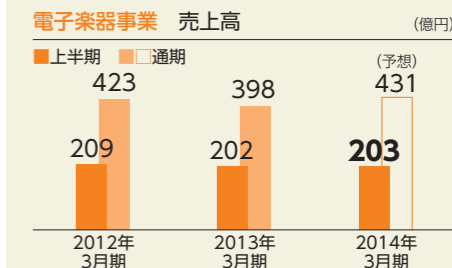
当上半期の連結売上高は、前年同期比実質11億円減少となりましたが、円安効果48億円により、前年同期比39億円増加の402億円となりました。通期売上高は、前期比実質6億円増加に加え、円安効果103億円等により、843億円を見込んでいます。

営業利益

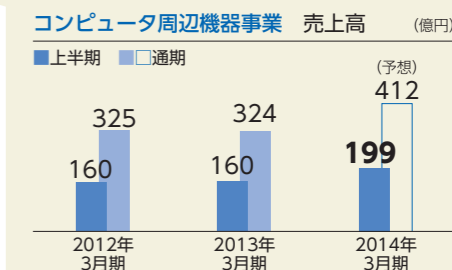


当上半期の営業利益は、経費削減や円安効果等により、前年同期比29億円増加の31億円となりました。通期営業利益は、前期比実質5億円増加に加え、円安効果56億円により、前期比62億円アップの58億円を見込んでいます。

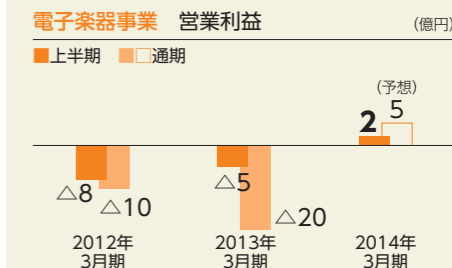
電子楽器事業 売上高 (億円)



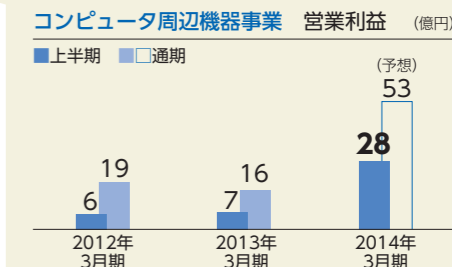
コンピュータ周辺機器事業 売上高 (億円)



電子楽器事業 営業利益 (億円)



コンピュータ周辺機器事業 営業利益 (億円)



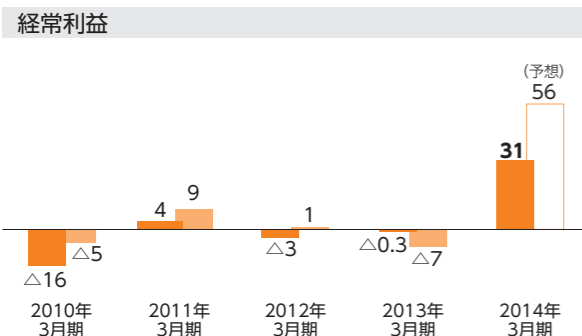
詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。
<http://www.roland.co.jp/ir/>

ローランド IR

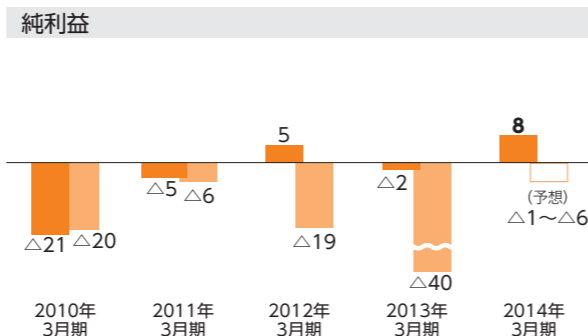
検索

■ 経常利益、純利益

■ 上半期 ■ 通期 (億円)

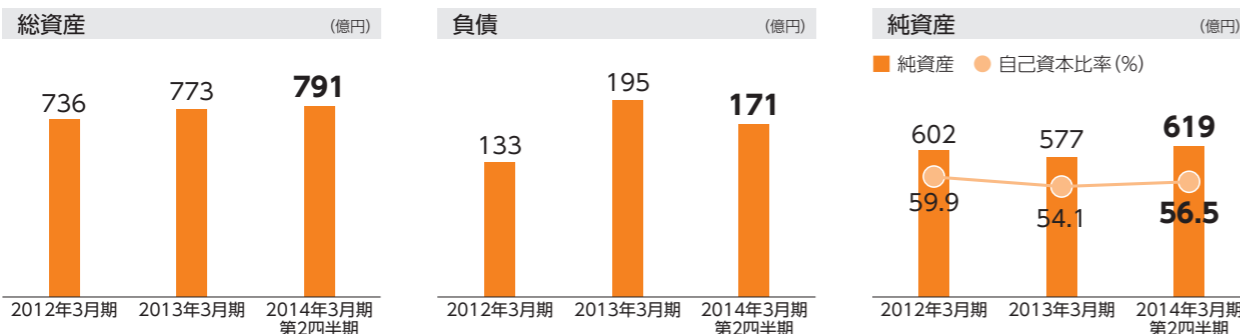


当上半期の経常利益は、前年同期3千万円の赤字に対して31億円の黒字となりました。通期では、前期7億円の赤字に対し、63億円アップの56億円を見込んでいます。



当上半期の純利益は、前年同期と比べて10億円増益し、8億円となりました。通期では、海外子会社の解散、清算に伴う特別損失を15~20億円計上することにより赤字を見込んでいます。

■ 貸借対照表



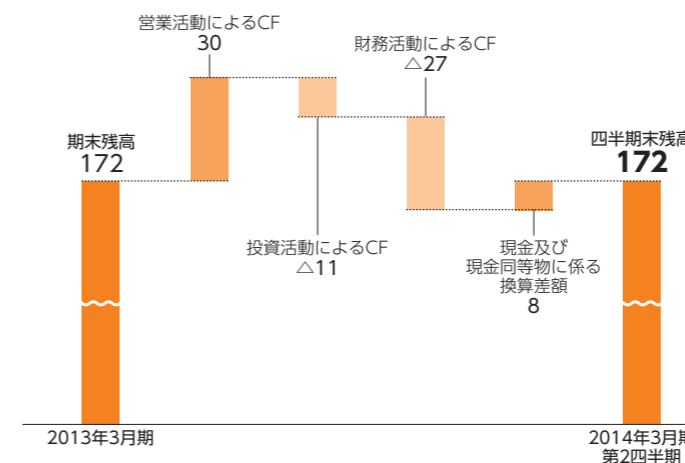
たな卸資産の減少3億円に対し、海外連結子会社の財務諸表の円換算額が円安により増加し、総資産は18億円増加しました。

短期借入金が20億円、支払手形及び買掛金が4億円それぞれ減少し、負債は24億円減少しました。

四半期純利益を8億円計上し、少数株主持分が14億円、為替換算影響が20億円、それぞれ増加したため、純資産は42億円増加しました。

■ キャッシュ・フロー

(億円)



営業活動によるキャッシュ・フロー

前年同期は13億円の資金の収入があったのに対し、当上半期はたな卸資産の減少等により30億円の資金の収入となりました。

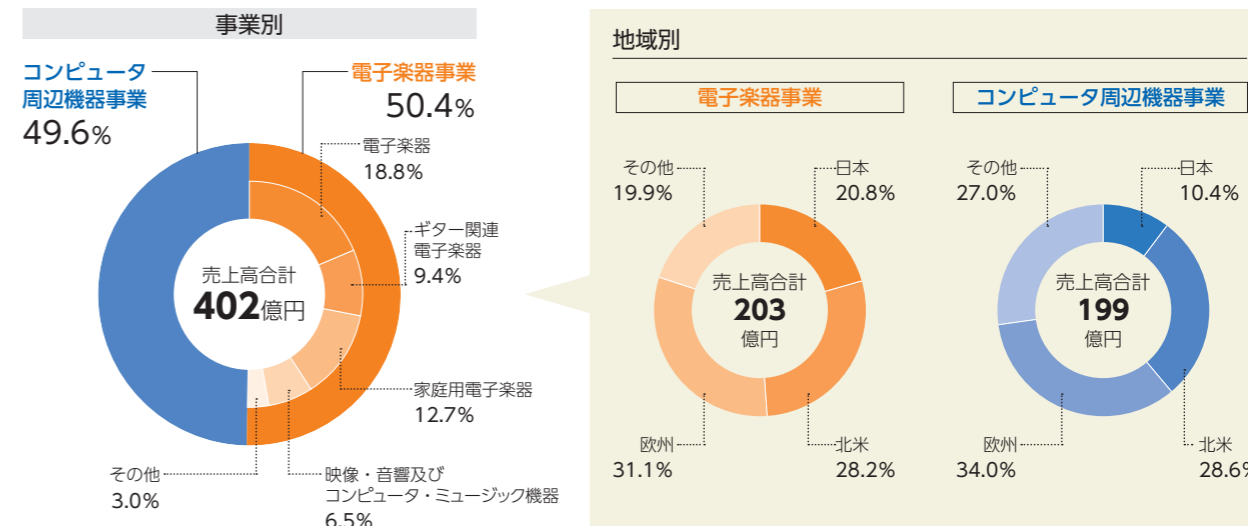
投資活動によるキャッシュ・フロー

前年同期は19億円の資金を支出したのに対し、当上半期は設備投資等により11億円の資金の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

前年同期は5億円の資金の収入があったのに対し、当上半期は短期借入金返済等により27億円の資金の支出となりました。

■ 売上高構成比 (上半期)



魅力ある商品を提供して、さらなる需要喚起を図るとともに
新規需要を掘り起こします。

ループ・ステーション

RC-505

新しい演奏スタイルを
広げます

リズムやフレーズを途切れることなく繰り返し録音／再生（ループ）させながら、即興の音楽をつくる独創的な演奏スタイルが、今、若い音楽愛好家の間で脚光を浴びています。そのスタイルは、ギタリストをはじめとしたさまざまな楽器の演奏家や歌手、ボイス・パーカッションなどに広がりを見せており、新しい音楽が次々に生まれています。『RC-505』は、卓上型の新デザインによりDJ感覚で手元操作ができ、劇的な効果を加えながら多彩なパフォーマンスが楽しめるモデルです。



デジタル・ハンド・パーカッション



HandSonic HPD-20

世界各国の
打楽器の音を1台に

さまざまな打楽器からダンス・ミュージック向けのサウンドまで豊富な音色を搭載し、手や指で直感的に叩きながら演奏できるコンパクトな電子打楽器です。最新音源と高感度センサーの搭載により、手のひらを使った力強いショットから指先で叩く微妙なニュアンスまで、高い表現力を持って演奏することができます。ライブでの演奏はもちろん、音楽制作の分野やダンス・パフォーマンスでも活用されるなど幅広く使用されています。



ローランドピアノ・デジタル



※写真はHP508です。

HP508/HP506/HP504

演奏の心地よさを追求した電子ピアノ

プロのピアニストやお客様のご意見を取り入れながら、機能の細部にまでこだわり、心地よい演奏感や使いやすさを追求しました。またヘッドホンでもコンサート用の大きなグランドピアノのような奥行き感のある立体的なサウンドを再現できるなど、家庭でより一層心地よくピアノ演奏が楽しめます。さらにすべての鍵盤を一鍵ずつ音程・音量・音質調整できる機能を、このクラスで新たに搭載。演奏したい曲や設置した部屋の音響特性に合わせ、簡単に調整が可能です。

マルチフォーマット AV ミキサー

VR-50HD

いろいろなフォーマットの
映像と音をこの1台で

ハイビジョンによるライブ配信や収録を実現させるには、これまでたくさんの機材が必要でした。『VR-50HD』は、豊富な入力端子や音と映像のUSB出力を搭載することで、この1台に集約しました。ホテル、学校などの設備用途からビジネスでのプレゼンテーションといったさまざまなイベントまで、映像や音響を少人数でコントロールしなければならない場面で活躍します。



音楽制作ソフトの子会社Cakewalk社の譲渡に関し、Gibson Brands社と基本合意

2013年9月19日、当社の保有するCakewalk(ケークウォーク)社の全株式をGibson Brands(ギブソン・ブランドズ)社へ譲渡する基本合意書を締結致しました。

当社は1995年より、Cakewalk社の開発、製造する音楽制作ソフトウェア事業を手がけてまいりましたが、市場の変化等により、業績低迷が継続し、事業譲渡することになりました。

今後、Cakewalk社製品は、Gibson社傘下のTEAC(ティアック)社が展開する「TASCAM(タスカム)」ブランドとして取り扱う予定です。なお、当社は自社の強みを活かしながら、引き続きコンピュータ・ミュージック関連機器事業を展開してまいります。

異動(株式譲渡)する子会社	
名称	Cakewalk, Ink.
事業内容	音楽制作ソフトウェアの開発・製造・販売
資本金	34,125米ドル
設立	1989年3月16日

欧州の開発・製造子会社の解散・清算

2013年11月6日、海外子会社であるRoland Europe S.p.A.の解散・清算を決定致しました。

Roland Europe S.p.A.は、1987年に当社がイタリアの電子楽器メーカーに資本参加し、社名変更してスタートした会社です。

現在進行中の構造改革の一環として、主力製品である電子ピアノの生産をインドネシアへ移管することに伴い、事業の継続が困難となることが予想されるため、解散・清算について決議されました。

この解散により、15~20億円の特別損失を計上する一方、清算後は年間約10億円の収益改善効果を見込んでいます。なお、Roland Europe S.p.A.の全事業は、他の拠点で継承していく予定です。

解散する子会社	
名称	Roland Europe S.p.A.
事業内容	電子楽器の開発・製造
資本金	9,928千ユーロ
設立	1976年6月3日

自社株式の取得

2013年11月13日に、株価の安定と資本効率の向上を目的として、右記の内容で自己株式を取得致しましたのでお知らせ致します。

取引日	2013年11月13日(水)
取得する株式の種類	当社普通株式
取得株式数	1,587,900株(発行済株式総数の6.7%)
取得価額	2,054,742千円
発行済株式総数	23,835,796株(うち自己株式数:50,087株)

※次項「会社の概要/株式の状況」には、今回の自社株買いは反映されていません。

会社の概要 (2013年9月30日現在)

商号	ローランド株式会社(Roland Corporation)
設立	1972年4月18日
資本金	9,274百万円
主な事業内容	電子楽器、電子機器及びそのソフトウェアの製造販売並びに輸出入
従業員数	2,907人(連結) 749人(単体)

役員の状態 (2013年9月30日現在)

代表取締役社長	三木 純一
取締役	柳瀬 和也
取締役	池上 嘉宏
取締役	湯川 純一郎
取締役	富田 高宏
取締役	田村 尚之
社外取締役	佐藤 克昭
社外取締役	西田 不二夫
監査役(常勤)	中村 健也
社外監査役(非常勤)	前川 三喜男
社外監査役(非常勤)	細井 為行
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

事業所 (2013年9月30日現在)

本社工場	静岡県浜松市北区細江町中川 2036 番地の 1
工場	都田工場、松本工場
研究所	浜松研究所
試験センター	都田試験センター
流通センター	浜松流通センター
国内オフィス	東京、大阪
海外オフィス	オランダ
ローランド・ミュージック・スクール	札幌/名古屋/大阪/広島/福岡 横浜(ローランド・サテラ)
連結子会社	国内 2 社 海外 30 社

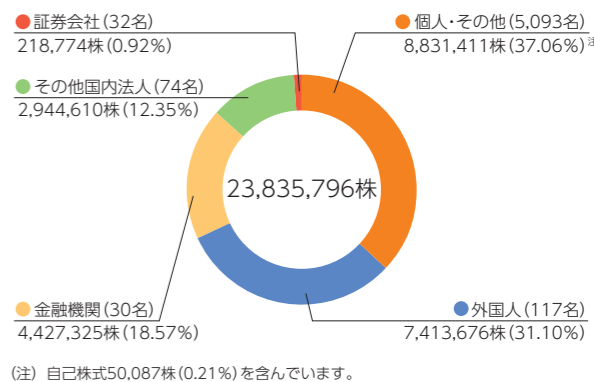
発行株式数及び株主数 (2013年9月30日現在)

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	23,835,796株
自己株式数	50,087株
株主数	5,346名

大株主 (2013年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
公益財団法人ローランド芸術文化振興財団	2,335	9.79
タイヨウ ファンド エルピー	1,842	7.72
梯 郁太郎	1,507	6.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,318	5.53
ノーザン トラスト カンパニー(エイブイエフシー)サブ アカウント アメリカン クライアント	1,119	4.69
ローランド社員持株会	759	3.18
株式会社りそな銀行	561	2.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	470	1.97
クレディ・スイス・セキュリティーズ(ヨーロッパ)リミテッド ピービー オムニバス クライアント アカウント	451	1.89
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテド ペンション ファンズ	435	1.82

株式の分布状況 (2013年9月30日現在)



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 単元株式数 100株
- 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
(その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。)
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
- 株主名簿管理人/
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 各種お問い合わせ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株式事務に関するご照会 電話0120-232-711(通話料無料)
[土・日・祝祭日を除く平日 9:00~17:00]
WEBサイト <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>
- 郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 公告方法 電子公告とし、以下の当社ホームページに掲載致します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載致します。
<http://www.roland.co.jp/ir/koukoku.html>

ローランド IRサイトのご案内

IR ページ

<http://www.roland.co.jp/ir/> (日本語サイト)

<http://www.roland.com/ir/> (英語サイト)



IRメール配信を行っています。
ぜひ、ご登録ください。

「復興特別所得税」に関するご案内

東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法(平成23年法律第117号)の施行に伴い、平成25年1月1日以降に支払われる上場株式等の配当等に係る所得税に対し、右記の通り追加課税されることになりましたので、ご案内致します。

平成25年1月1日以降に支払われる上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率

	平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで	平成26年1月1日から 平成49年12月31日まで	平成50年1月1日から
所 得 税	7%	15%	(※)15%
復興特別所得税	0.147%	0.315%	—
住 民 税	3%	5%	(※)5%
合 計	10.147%	20.315%	20%

上場株式等の配当等に係る所得税に対し、平成25年1月1日から平成49年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されることとなります。

(※)証券税制における軽減税率の適用終了による税率の変更です。

■源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合には住民税が徴収されません。

■本ご案内は、上場株式等の配当等に係る復興特別所得税について、一般的な情報をご提供するために作成されたものであり、本ご案内の内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄りの税務署、税理士等にお問い合わせください。

 Roland

ローランド株式会社

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川2036-1
TEL : 053-523-0230

UD FONT

